



令和6年2月13日
 杉並区立天沼中学校
 東京都杉並区本天沼3-10-20
 ☎ 3390-0161



今回の学校だよりでは2学期に行われた杉並区の意識実態調査や保護者の皆様にご協力いただいた教育調査の結果をお伝えします。区の平均に対して青が「+傾向」黄色が「-傾向」の結果となっています。内容をご確認いただき、ご家庭で話し合うきっかけとしていただければ幸いです。また、「-傾向」の項目については、学校として改善できるように取り組んでまいります。ご協力ありがとうございました。

また、CSよりお願いした「生活と学び調査」の結果についてはCSだより「メビウス」にてお知らせいたします。

杉並区 意識・実態調査 (平均値は5段階評価の平均値、肯定率は本校の生徒のみの肯定率(%))

大領域名	領域名	観点名	学年	区 平均値	本校 全学年 平均値	質問内容	肯定率		
(学習経験)	主体的・対話的で深い学びの経験	本物の学び	2.3年	3.23	3.35	授業では、普段の生活のことや、社会で問題・話題になっていることを材料に学んでいる。	66.9		
			1年	3.13	3.01	授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。	25.7		
		探究の学び	2.3年	3.62	3.50	授業では、自分の興味や関心に基づいて、自分なりに問いや課題を立てて学んでいる。	42.8		
			1年	3.49	3.41	授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる。	58.0		
		個別の学び	2.3年	3.58	3.41	授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。	48.2		
			1年	3.46	3.32	授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。	45.5		
		協同の学び	2.3年	3.89	4.02	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	68.5		
			1年	3.87	3.77	授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。	69.3		
		民主的な学校生活	2.3年	3.33	3.69	学級のみならず、学校全体に関わることは、自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめてから決めている。	69.6		
			1年	3.39	3.40	学校生活で誰かが疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意して変えたりしている。	44.7		
		(学習経験)	学校教育を通じた成長の実感	成長の実感	2.3年	3.87	4.06	授業で学ぶことによって、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。	73.5
					1年	3.82	3.83	みんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。	74.7
学校教育の充実感	2.3年			4.14	4.33	学校が楽しい。	67.7		
			1年	4.06	4.44				
(資質)	成長への意欲	学びの動機	2.3年	3.92	3.98	「知りたい」「分りたい」「できるようになりたい」と思っていることがある。	84.0		
			1年	3.86	4.01	他の人から勧められたことは、興味なくても、自分で調べたりやってみたりしている。	49.8		
	主体的に学習に取り組む態度	学びの自己調整力	2.3年	3.75	3.76	新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で目標や計画を立てて学習をやり遂げることができる。	69.6		
			1年	3.66	3.67	学んでいて解決できる分からない問いや課題に出合ったとき、挑戦したり失敗したりすることを楽しめる。	51.8		
	対話的に学習に取り組む態度	学びの相互調整力	2.3年	3.90	4.00	一人で学んでいて、解決できない問いや課題に出会っても、できるまで自分なりにやり続けている。	60.3		
			1年	3.86	3.95	他の人と一緒に学ぶとき、自分の得意を生かしたり、苦手を補ってもらったりしながら学習を進めることができる。	70.4		
				2.3年	3.90	4.00	グループや班で学ぶとき、一人一人のよさが生きる役割分担を、自分たちで考えて学習を進めることができる。	74.7	
				1年	3.86	3.95	グループや班で学んでいて、メンバーの関係がうまくいかなくても、協力し合える方法を自分たちなりに考えて、全員で学習をやり遂げている。	77.8	
人間性(資質)	自分自身に関すること	自己効力感	2.3年	3.97	3.95	自分は、努力をすれば、大抵のことができるようになると思う。	73.9		
			1年	3.76	3.83	自分は、失敗したとしても、その経験を次に生かすことができる。	62.6		
		自己受容感	2.3年	4.03	3.94	自分には、自分なりに「よい」と思えるところがある。	79.4		
			1年	3.81	3.84	自分に短所や欠点があっても、「自分らしさ」だと思える。	59.5		
	人との関わりに関すること	他者への受容感	2.3年	4.11	4.22	相手が話そうと思っていることは、最後まで聞いている。	75.1		
			1年	4.02	4.13	相手が自分とは違う考えや気持ちでも、最初から否定しないで受け止めている。	73.9		
		他者からの受容感	2.3年	4.19	4.20	学校には、自分の考えや気持ちを分かってくれる仲間がいる。	67.3		
			1年	4.10	4.21	学校には、自分のことを認めてくれる先生がいる。	66.5		
	集団や社会との関わりに関すること	集合効力感	2.3年	3.84	3.82	いまの学級のメンバーなら、協力して、自分も他の人も全員が居心地のよい学級がつけられると思う。	63.0		
			1年	3.62	3.78	いまの学校のみならず、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う。	54.1		
	生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	自己超越感	2.3年	4.04	4.26	自分の本当の気持ちを聞いて、自分の生きたいように生きる。	77.0		
			1年	3.89	3.96	自分以外の誰かが何かを、自分と同じか、それ以上に大切にしようとする。	70.0		

杉並区 教育調査(保護者・教員)(%は肯定率です)

保護者評価	区全体	天沼中
子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできているが増えている	54.7%	62.4%
子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	65.5%	75.2%
子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイリテイ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	49.7%	61.5%
学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	46.3%	54.7%
連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	40.6%	66.7%
子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	64.7%	78.6%
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	34.0%	33.3%
学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	43.2%	43.6%
学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	62.8%	69.2%
学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	79.0%	68.4%
学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかわかり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができる	43.9%	47.9%
子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	35.0%	35.9%
学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	27.8%	18.8%
子どもは、学校生活を楽しんでいる	68.4%	73.5%
子どもは、通級指導教室・特別支援教室で学ぶことによって、学校生活全般への参加がしやすくなっている	62.2%	40.0%
学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、障害者に関する様々な情報を、保護者会や個人面談、進路説明会などの機会をとおして提供している	42.0%	40.0%

教員評価	区全体	天沼中
授業では、普段の生活のことや社会での問題・話題になっていることを材料に学べるようにしている	75.8%	71.4%
授業では、「授業を進めるのは、先生ではなく、児童・生徒である」と児童・生徒が感じられるようにしている	49.0%	64.3%
授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている	51.3%	57.1%
授業では、児童・生徒が、挑戦や失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組めるようにしている	77.5%	78.6%
授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている	43.0%	21.4%
授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている	69.5%	50.0%
授業の中で出た意見や考えを、児童・生徒が自分の学びに生かせるようにしている	78.5%	78.6%
授業では、児童・生徒が、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている	77.8%	71.4%
学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている	72.8%	71.4%
学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている	63.9%	78.6%
学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している	59.9%	57.1%
児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	56.3%	57.1%
連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	53.6%	71.4%
教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている	66.6%	64.3%
子どもと向き合う時間が確保できている	45.4%	21.4%
タイムマネジメントを意識して勤務できている	49.3%	50.0%
勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる	41.7%	28.6%
誇りややりがいをもって仕事を行うことができている	69.5%	57.1%
ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている	36.1%	28.6%
スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている	75.5%	71.4%
児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	69.2%	64.3%
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている	43.0%	28.6%
授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている	61.6%	50.0%